



JARA NEWS

May 2017, No. 111

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shirawa Bldg. 1-2-2-7F
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 108-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690

タカタ製エアバッグの リコール影響深刻、 リサイクル事業者の 負担増に

エアバッグのリコール対象車種の増加に伴い、使用済み自動車のエアバッグ取り外し回収業務で、リサイクル事業者の作業負担が増えている。通常であれば、車上で動作処理で回収処理できるが、リコール未対策の場合には、取り外し回収のために通常より多くの時間を要することになる。なかには、対策済みなのに対策ステッカーが貼付されていない、もしくは剥がされているケースなど複数の問題点がリサイクル事業者から指摘され、作業の現場では確認に手間がかかることもある。リコール対象車種は増えており、関係者間で問題点の共有が必要となりそうだ。

◆急ピッチで進んでいるリコール対策

タカタ製エアバッグのリコール対策は、大きく二つに分けられる。一つは改良部品（対策部品）に交換する最終対策。もう一つは、改良部品の供給が間に合わないため新品部品と交換して、後日改良部品と交換するもの。現在、不慮の事故での乗員負傷を防ぐため、国土交通省や自動車メーカー、ディーラーはリコール対応を急ピッチで進めている。自動車メーカーのサービス担当者は「新品部品への交換は、リコール対象車の90%を超えて95%に近づいている」という。しかし、リコールの通知文書がユーザーの転居先不明で返送されるケースがある。この場合は、ディーラーが自治体へ赴き、理由を説明して転居先を確認するなど、ユーザーへの周知を急いでいる状況だ。

リサイクルの現場では、リコール対象車種で対

ダッシュボードからリコール対象エアバッグを取り外して、インフレーターの状態まで分解して回収する



策未実施の使用済み車の入庫が増えている。現在「一日の入庫台数の10%から20%が対象車種の時がある」（大手自動車リサイクル事業者）という。自動車再資源化協力機構（自再協）は、自動車メーカーがリコール届出を行った段階で、契約を結んでいるリサイクル事業者へ速やかに周知を行っている。

また、要望に応じて自動車リサイクルシステムの解体工程の画面上で、リコール対象車台がオレンジで表記されるようにしている。これにより、リコール対策済みか未対策かを確認することができる。リサイクル事業者は、この情報に基づきエアバッグの適正処理を行っている。

◆難しい作業員の安全確保と作業効率の両立

しかし、問題としてリサイクル事業者が指摘するのは「対策済みなのにステッカーが貼られていない。もしくは、剥がされてしまっている」「一時的に作動させないようにしているが、その表記がない」ということだ。なかには「ディーラーには、きちんと対応を求めたい」という声もある。そのため、リサイクル事業経営者は「作業する社員の安全を第一に考えると、リコール対象車種は、たとえオレンジ表記でなくても一台一台確認しなければならない」。さらに「第一に確認作業に時間がかかり、取り外し回収で作業効率が落ちるので、作業員の負担が大きい。社員の安全を守ることと効率を上げることが両立するのが我々の課題」と続け、苦しい胸の内を明かす。

現在、リコール対策未実施の使用済み車から、リコール部位のエアバッグの取り外し回収を行った際、特別作業費用が支払われる。リサイクル事業者のなかには「作業負担を考えると、もう少し費用を上乗せしてほしい」という要望も出始めている。しかし、重要なのはユーザーが支払う自動車リサイクル料金のうち、エアバッグ類料金は「取り外し回収」を前提に料金を設定しているということだ。経済産業省自動車課が「リサイクル事業者の負担が大きいことは理解しているが、これまで通り適正処理をお願いしたい」との見解を示すように、特別作

輸入車など車種により、ダッシュボードの取り外し作業に時間がかかることがある



業費用の引き上げは難しいと見た方が良いでしょう。

◆各団体はともに協力する意向

国土交通省が7日に発表した「2016年度のリコール総届出件数及び総対象台数」によると、総届出件数364件で総対象台数は1584万8401台。このうち、タカタ製エアバッグに関する届出件数は43件、対象台数は621万8677台と全体の約40%を占めている。このことから、今後も使用済み車に占めるエアバッグリコールの対象車種の増加が予想され、リサイクル事業者の取り外し回収作業数が減少に転じるとは考えにくい状況となっている。

タカタ製エアバッグに関するリサイクル事業者が抱える課題に、自再協は「何かあれば言ってもらいたい。できる限り対応したいと考えている」と協力する姿勢を見せる。また、自動車リサイクル促進センターも「遠慮なく意見を頂きたい」と同じくリサイクル事業者を支援する意向を示している。（日刊自動車新聞4月13日）

15年度の温室効果ガス 排出、2.9%のマイナス

環境省によると、2015年度の国内温室効果ガス総排出量（確報値、二酸化炭素換算）は前年度比2.9%減の13億2500万トン。減少は2年連続で、省エネの進展や例年に比べて冷夏・暖冬だったこと、再エネの拡大や原発の一部再稼働で電力の排出原単位が改善したことなどが背景にある。同省は前年度の見通しを明らかにしていないが、日本エネルギー経済研究所は省エネの進展で16年度も減ったと推計している。実際に減っていれば初めて3年連続で減少することになる。

もっとも、15年度実績を13年度と比べると6%減。政府は30年度に同26%減を目指しており、さらに2割の削減が必要だ。

（日刊自動車新聞4月15日）

CO2削減数値(JARAシステム)

リユースパーツ使用によるCO2削減効果参考値
平成29年3月

3,087t

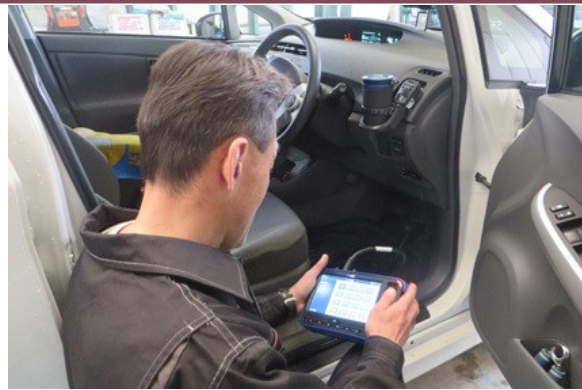
※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

ゆとりある作業環境を整えた

コアや商品を保管する広大なスペースも完備

田中勝弘社長（右）と田中典昭統括工場長



整備工場では約8割が所有している

JARA提携リビルト メーカー紹介 ジャパンリビルト(株) トラック部品の生産強化

ジャパンリビルト（田中勝弘社長、大阪府堺市）が将来の持続的成長に向けて事業基盤を固めている。このほど同市内に新設した新工場が本格的に稼働し、昨今、需要が高まっているトラック部品の生産強化に乗り出している。中長期的に国内市場の縮小が避けられない中、高い生産効率と即時納入体制を実現する新工場が同社の事業発展を支える強力な原動力となりそうだ。

◆営業品目は業界屈指の27アイテム

同社の設立は1980年9月のこと。創業者である田中社長は設立からさかのぼること10年前の1970年に大阪市住吉区で自動車部品再生業を開始した。75年に単身渡米し、オートマチックトランスミッションのリビルド技術を習得。翌76年には同部品のリビルド事業を手がけ始めた。

それから40年。現在の営業品目は27アイテムに及ぶ。同社の歴史は生産部品の品目拡大の歴史でもあり、今ではドライブシャフト、ミッション、パワーステアリング、エンジン、電装品、気化器関連と多岐にわたり高品質のリビルドパーツを提供している。2000年にはドライブシャフトの新品生産ライン工場を建設しており、「コアがなくても出荷できる」（田中社長）生産体制を整えたことも同社の大きな強みとなっている。

◆苦境こそチャンス

一方で、同社が業をなす自動車リサイクル部品業界を取り巻く環境は厳しさを増している。縮小する新車需要や堅調な中古車輸出、平均使用年数と車齢の高齢化、中古車流通経路の変化などを背景に使用済み自動車（ELV）の発生減が続き、廃車仕入れ価格の高止まり、スクラップ相場の低迷も向かい風として吹く。また、ハイブリッド車や電気自動車など次世代車両への対応も求められている。

こうした状況に対し田中社長も「このままで

は業界は尻すぼみになる」と危機感を強めている。「現状だけを見ては厳しくなる一方。将来を見据えて動いていかなければならない」経営環境下にあることも新工場の新設を後押しした。田中社長は「追い込まれた時こそチャンスがある」と強調する。多彩な営業品目に加え、昨今の需要拡大に合わせ強化しているトラック部品、そして最新鋭の新工場を武器に苦境を乗り越え、事業拡大を目指す。

新工場は和泉自動車検査登録事務所の近隣に位置する。敷地面積は約6600平方メートル。駐車場を含め8250平方メートルを超える大規模工場を新設した。オフィス家具を取り扱う企業の居抜きだが、ゆとりある作業環境を整えた部品生産スペース、コアや商品などの保管スペース、さらにはトラックが発着できるプラットフォーム、2、3階を結ぶエレベーターなども完備しており、まさに「いいものを作っていくにはきれいで近代的な工場が不可欠だ」（同）との考えにふさわしい工場となっている。

新工場では需要が増えているトラック部品の生産を担うという。エンジンやミッション、触媒などを集中的に生産し豊富なコア在庫も含め即時納入体制を整える。工場内は洗浄や分解、組み立てといった一連の部品生産フローを効率的で生産性の高いものにするため動線を最大限に配慮したレイアウトを採用。また、各種テスターや最新の洗浄機器も新たに導入するなど、今後の事業拡大を見据えた生産基盤を整えた。また、工場には見学者用コースも設けている。

◆ウェブサービスで部品検索、今後は発注も

同社は昨年3月、在庫やコアの状況、金額などが確認できるウェブサービス「ジャパンリビルト商品検索システム」を立ち上げた。今後はシステム上で部品発注もできるようにするという。リビルド部品の生産体制強化とともに効率的な供給体制も整えることで、より品質の高い商品を即時納入体制で提供していく考えだ。

（日刊自動車新聞4月6日）

活用進むスキャンツール 車体整備業やリサイクル分野でも

スキャンツール（外部故障診断機）を既存事業の活性化につなげようと、各種研修が積極的に展開されている。分解整備だけでなく車体整備業やリサイクル部品事業分野でも不可欠な機器と位置づけて、最新技術への対応を急いでいる。国土交通省は、今年度も予定する補助金交付で機器の普及とともに研修会などへの活用を計画する。「ユーザーやディーラーから支持されることが入庫に結び付く」（整備団体関係者）ことから、生き残りのためのツールとして活用が進みそうだ。

国土交通省は、整備工場のスキャンツール普及率を約8割とみている。日本自動車整備振興会連合会（日整連）の「スキャンツール活用事業場認定店」は2015年度末時点で7275店にのぼる。今後は普及から活用の段階に入るといえる。

各団体も活用に向けた支援や研修を充実化している。JA共済自動車指定工場協力会（JARIC）は「JARICメカニカル研修会総合診断技術コース」を受講することで、日整連の認定を受ける過程で必須となる「基礎講習会」を免除できる仕組みを整えている。大型車整備ではロータストラックネットが全日本ロータス同友会の教育委員会と共催して汎用スキャンツールの技術研修会を全国6地区で開催した。

日整連は再教育プログラムにスキャンツールを採り入れた。車体整備士資格保有者に対して先進安全技術に関する再教育を行い、技術レベルの高度化に努めている。

補修用ガラス業界など関連業界も「スキャンツールの知識を身につける必要がある」と危機感を募らせる。衝突被害軽減装置用のカメラなどがフロントガラスに取り付けられており、ガラス交換時に作動確認が求められるからだ。

先進安全技術の普及とともに不可欠となるスキャンツール。「使える」だけでなく「活用できる」ことが生き残りの条件となりそうだ。

（日刊自動車新聞4月7日）

トヨタ自動車、 中国でFCV導入へ 10月から実証実験

トヨタ自動車は18日、中国で10月から、燃料電池車（FCV）「ミライ」2台を導入し、実証実験を開始すると発表した。これに合わせて研究開発拠点のトヨタ自動車研究開発センター（中国）（江蘇州常熟）に水素ステーションを新設する。

トヨタはミライを2014年12月から17年2月までに日米欧で約3千台販売した。中国でも次世代環境車として普及を図る狙いで実証実験を始める。中国には水素ステーションが北京、上海などに5カ所あり、江蘇州への設置は初めて。

中国でのFCVの実証実験は20年まで3カ年の計画。現地における車両走行調査、水素品質調査、品質・耐久性評価を行うほか、各種イベントにミライを展示し商品が受け入れられるかの調査や訴求活動を行う。

トヨタは中国で、ハイブリッド車（HV）に加え、プラグインハイブリッド車（PHV）やFCVの普及を進める方針。電気自動車（EV）も数年以内の導入を計画している。

「ありがとう」を
たくさんもらえる会社へ

JARA
Japan Automotive Recyclery Alliance

<http://www.jara.co.jp/>



コベルコが提案する 新しい考え方

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体およびさまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。

自動車解体機

使用済み自動車に含まれる素材の分別作業がスピーディーに行えて希少金属資源の回収が可能です。



SK135SRD



SK210D

コベルコ建機株式会社
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器以及各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

SK210D



汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，能够回收稀金属资源。

SK210D



成都神钢工程机械(集团)有限公司
www.kobelco-jianji.com/

For China

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器，以及进行各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

SK200



汽车拆除机

可快速进行报废汽车内部素材的分类作业，得以回收稀有金属资源。

SK200



FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.
www.ffg-tw.com/

For Taiwan

새로운 발상은 KOBELCO에서

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의 해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR

(주)삼정건설기계
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

SK210D



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
www.kobelco-usa.com/

For North America

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.



SK135SRD

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD
www.kobelco.com.au/

For Australia

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

SK210D



Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently separates and sorts raw materials in end-of-life vehicles and is able to recover rare earth metals.

SK210D



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
www.kobelco-europe.com/

For Europe